

日本藻類学会第 48 回大会ワークショップ 2 「微細藻類の採集・観察会」参加記

三井 玲来

兵庫県の淡路島にて日本藻類学会第 48 回大会ワークショップ 2「微細藻類の採集・観察会」が開催された。天気はあいにくの曇り。朝は小雨が降っていたものの、ワークショップ中は、雨が降らなかったことが幸いだった。

メンバーはスタッフの方を含めて 6 名。その中で学生は一人だけ。ワークショップへの参加は初めてであったこともあり、少し緊張した。普段は藻類が生産するタンパク質の研究を行っており、微細藻類の単離・収集を専門に行っている訳ではないし、「専門家だらけの中で、大丈夫なのか？」そんな心配をしていたが、杞憂に終わる。想像していたよりも遥かに暖かく受け入れてくれた。

今回訪れた場所は、砂浜のある海岸、海浜公園、栄養が豊富そうなため池、漁港の 4 か所。スタッフの方の凄まじい運転技術でサンプリング場所まで案内していただいた。

サンプリング場所に到着すると、砂や海藻など気になったものの採取や、プランクトンネットを用いたサンプルの採取を行った。私はプランクトンネットを使用するのは初めてだった。使用方法を丁寧に解説していただき、10 ミクロンのネットをため池と漁港の二か所で投げさせてもらった。慣れない作業に手間取りながらも、なんとかサンプルを採取することができた。

サンプリング後は、採取したサンプルを顕微鏡で観察した。海周辺で採取したサンプルが多かったため、主に渦鞭毛藻や珪藻が見られた。大きさ、色、形など、私が普段見ている緑藻たちとは全然違う。新鮮で面白かった。

存分に顕微鏡観察を楽しんだ後、私の所属研究室では行っていない単離技術を習得させていただいた。神戸大学の大沼先生が非常に丁寧に教えてくださった。私の所属研究室では、強光などのストレスに強いユニークな微細藻類を探索してい

るため、サンプルを撒いた寒天平板を直射日光の当たる窓辺で培養し、生き残った藻類のコロニーをひとつずつピックアップすることで単離を行っている。今回教えていただいたのは、液体中の藻類を一匹だけパスツールピペットで吸い、単離する作業。全然違う。狙った藻類一匹だけを吸えるという事実が私にとっては驚きだった。

まずは、アルコールランプで熱したパスツールピペットの先端をピンセットで伸ばす。瞬時に細く真っ直ぐ伸ばすのは非常に難しい。何度も挑戦させていただいた。次は、伸ばした先端を適度な長さに切断したパスツールピペットを使って、藻類を単離する作業。これも非常に難しかった。単離したい藻類に狙いを定めてパスツールピペットをセットし、慎重に息を吸う。ひゅっと吸い込まれる藻類。新しい培地を用意し、顕微鏡で確認しながら息を吐き出す。パスツールピペットの先から飛び出す一匹の藻類。辿々しい動きではあったが、単離に成功した。この時の達成感は、なかなか日常で味わえるものではないだろう。

今回のワークショップは内容が充実しており、非常に贅沢な時間を過ごすことができた。採取した沢山のサンプルと、良い経験が得られたという満足感と共に帰路についた。

お土産にいただいたサンプルは、所属研究室で寒天平板に撒いた。窓際にしばらくの間置いておくと、緑色のコロニーがちらほらみられた。この中からユニークな子が見つかることを切に願う。

最後に、本ワークショップを企画してくださった先生方、参加された皆様、作業に根気強く付き合ってくれた藻類たち、ワークショップに携わった全ての方に大いなる感謝を。

(東京農業大学大学院)



サンプリング中の風景 (写真提供: 大沼亮氏).



単離作業中の風景 (写真提供: 大沼亮氏).